

## 学生が描く「国際化」の展望へ向けて

OFIAS インターン 並木麻衣(A3)

本学国際化活動の主演となり得る学生たちに対し、2008年1月下旬から2月上旬にかけてインタビューを行いました。今回の調査の対象は一般学生、チューター、多文化コミュニティ教育支援室、TOFSIA(学生の国際交流サークル)、そして留学生会館に住むチューターの計14名、内容は主に「**国際化には何が足りない?**」という点に焦点を当てました。その中で判明した、学生たちが実際に抱えている問題点や課題を洗い出して整理するのが本報告書の目的です。

なお、「学内のアクターそれぞれの活動範囲に制約がある以上、他人任せにはならない」という企画者の意図を踏まえ、本報告書の中では「誰が、どこに責任があるのか?」「誰が解決しなければならないのか?」という点に重きを置きません。更に、この報告書を元に次の段階では**学生に解決策を考えて企画を立ててもらう**ことになっています。立案された企画はインターン生とOFIASを通じ学内の国際化に関わる各部署へと伝えられることになり、このプロセスによって**国際化に関する学生の意見を大学の運営に反映させる経路を作り上げる**ことが、本企画の最終目標です。

**予告: 「学生国際化委員会」の試験的運営(参加者募集中!)**

日時: 2/22(金), 2/29(金) 午後に学生を集めてミーティング、詳細は参加希望者間で調整

場所: 未定

備考: インターネット上での連絡も考えています

興味を持って下さった方は、お手数ではありますが [namiki@ofias.net](mailto:namiki@ofias.net) もしくは 080-6745-5467 までご連絡下さい。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

更新情報随時掲載! : <http://www.tufs.ac.jp/common/is/kenkyu/ofias/intern/project.html>

## 学生へのインタビュー(2008/02/05)

対象: アラビア語科3回生3名

### <外大に入った理由>

- ・ フランス語からアラビア語へ興味推移
- ・ イスラームについて日本人の不理解
- ・ 語学が好き
- ・ アラブ研究なら外大、という「勘違い」?



### <入学後の現実>

- ・ 語学以外に割く時間がなく、他分野からの刺激を得られる**課外活動の機会を得られない**
- ・ 語学で出される日々の課題をこなすことで満足してしまう宿命
- ・ 先生の意見だけを聞かされる**受身の授業**が大半
- ・ **「日本とは？」を発信できない**
- ・ 語学以外はレポートをテキストに出せば楽に単位が取れてしまう
- ・ 入学時に「入って何をしたいか」がよく分かっておらず、入った後も見つからない
- ・ 減らされていく授業



### <問題点、疑問、提案>

- ・ 基礎の基礎が分からない、言語を使う材料となる**教養の授業に厚み**を
- ・ 同じ分野に興味を持つ**学生の繋がり**が出来ない→1,2年からゼミ的なものがあるのもいいのでは?
- ・ 言語をどう使えるか、使って何をするか思いつく機会がない→**コーディネーター**が必要(cf.就職支援室)
- ・ 卒論で言語をフル活用するための下地
- ・ 学問同士の関連が学生からは見えない、複数コースにまたがるはずの「教育」が「地域・国際」?
- ・ 学生を締め出さず、**自由に動き回り交流する「場」**を提供することは出来ないか



「発信する」ための教養」見直しを

## 個人チューター・学生へのインタビュー(2008/02/05)

対象:カンボジア科2・3回生、英語科4回生(計3名)

### <外大に入った理由>

- ・ 漠然と国際的なことに関わりたかった
- ・ 国立なのに専門的、留学費を捻出できる
- ・ 語学を使って活躍する専門性のイメージ
- ・ 英語ペラペラ、留学生の友人を持つイメージ



### <入学後の現実>

- ・ **語学に重きが置かれすぎる**、語学を武器にして他のことが出来ない、**他分野との繋がりが見えない**
- ・ 研究分野へ進む際に**必要なものが分からない**(ゼミ選択時期になって必修科目に気づく)
- ・ 語科によって先生の対応(留学生との交流、イベントなど)に差がある(小語科ほど充実?)
- ・ 「地域研究のための語学」意識が足りない→言語が「一発芸」化?
- ・ いい先生が入っていても**授業の取り方が分からない**(PCS など)
- ・ 対象学年に限られ、総合科目かつ語学力を証明しなければならない ISEP 授業は取りにくい
- ・ 教養を外大に求めるのは間違っている? せっかく外から先生を呼んでも**基礎が無い**から理解できない
- ・ 留学生との**交流のきっかけがない**



### <問題点、疑問、提案>

- ・ ISEP の授業を副専攻英語 B や地域専門・専修専門にすれば良いのではないか(**フレキシブル**に)
- ・ 専攻語を使ってこそオリジナル論文が書ける→**研究のための基礎講座・ガイドライン充実**が必要
- ・ **交流の場**を増やすことで留学後の語学力維持にも役立つのでは
- ・ 入学志望の**高校生に対し情報の公開**、本校の特殊性アピールを(ex.アットホームな入試課ブログ)
- ・ 学生が入学志望者へ向けて発信できるプライベートな交流・情報網(新入生の下準備に役立つ)
- ・ 外国語だけを売りにしない大学へ



“きっかけ”の提供、情報の循環

<現状の問題点>

- ・ 留学生が納得出来ない、実情に合わない**規則の押し付け**(汚れるため飲食禁止、など)  
→チューターが留学生と留学生課の間で板ばさみになる
- ・ チューターの**役割が明文化されていない**  
→監視役か、意見を汲み取るか…意見の違い→各チューターの負担に差
- ・ チューター**採用プロセス・基準・理由が曖昧**である→チューターの間でも連携が取りにくい
- ・ 「ケアは不十分なのに宣伝に利用されている?」と感じる留学生
- ・ 協定留学で日本人を送ることに熱心でも外国人受入態勢を整えない先生もいる
- ・ チューター出勤表は簡単に勤務時間を**水増し報告**することが出来てしまう
- ・ 意見をまとめて要望や訴えを出しても、留学生課を通じて「**委員会**」協議まで届かず、**結果が出ない**
- ・ **契約と違う**ことがある(会館居住限度1年など)
- ・ 月13000円の共益・自治会費は実質的に自分たちで**使い道を決めることが出来ない**
- ・ 田端の寮から新寮に移って規則・管理方法が変わっていた
- ・ 外語祭に参加出来ない ISEP 生(10月渡日)
- ・ 留学生と日本人学生の**交流場が無い、関係が弱い**



<疑問、提案>

- ・ 使えば汚れるのだから、むやみに禁止せず数年に一度張り替えるのはどうか?
- ・ 留学生自身がルールを作り、提案することは出来ないのか?
- ・ 「チューターとは何か」ははっきりと**定義**して欲しい(JASSOのRA規定が参考になる)
- ・ 13000円の自治会費のうち500円でも**本来の自治会費**に回したらどうか?
- ・ 他大のようにチューターと責任者の**意見交換**を年に数度行ってはどうか?(委員会へのパス作る)
- ・ 現状では偽造が出来てしまう**チューターの出勤制度は改善出来ないのか?**
- ・ 交流の手段・場所・情報をもっと必要



居住者・利用者の意見の反映を

## 「価値観の多様化」の1つとしての「国際化」

### <現活動>

- ・ 多文化理解教育プログラムを  
学生(日・留)が企画、  
小学校などで実施
- ・ 学生のリーダーシップ養成  
(学生のための研修サポートあり)

### <メリット>

- ・ 日本再発見
- ・ 留学生の人間らしさが垣間見える
- ・ 学校の先生の意識から変えていく
- ・ 地域でプレゼンスを発揮
- ・ 外大の特色へと昇華

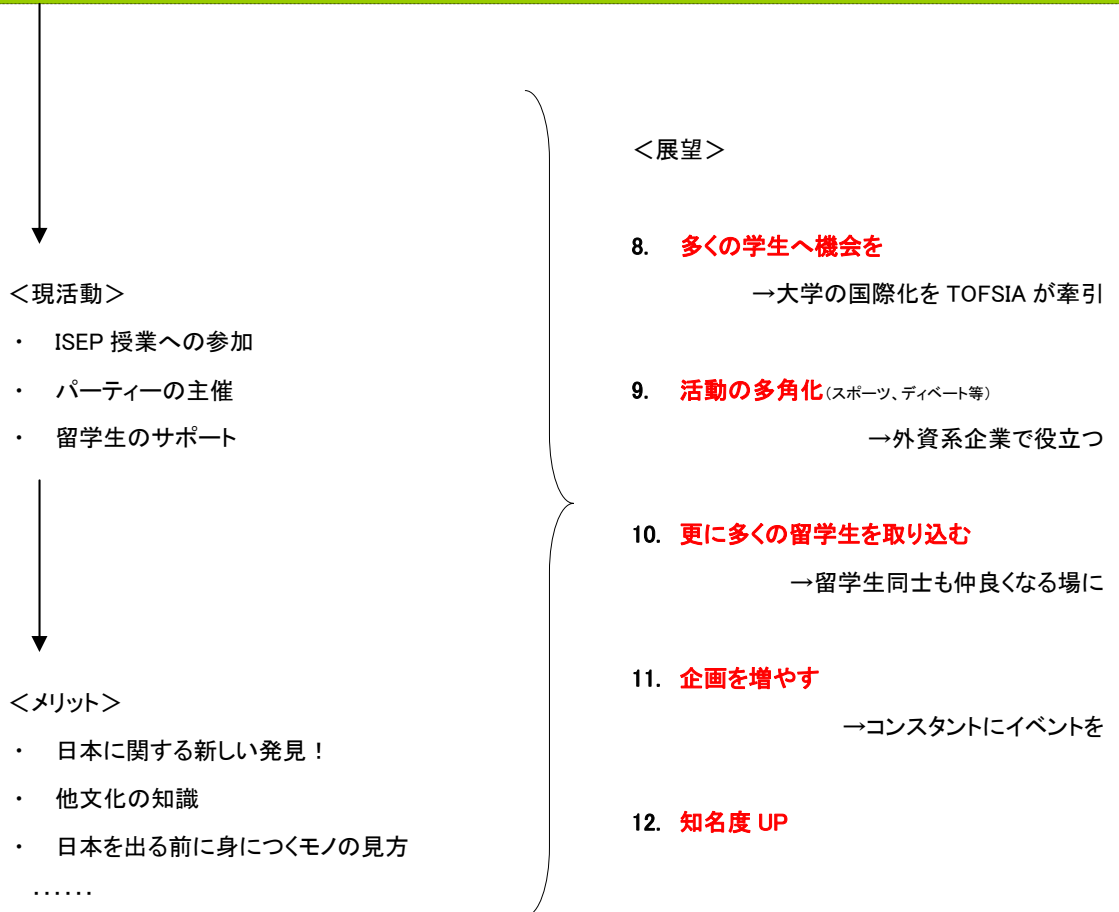
### <重要ポイント>

1. 国際理解教育は留学生を喋らせることで  
はない！(=**多語科間交流も国際理解に**)
2. 要“**基本的人間力**”—主体性、社交性
3. 学生の参加で**市政が変わる！**
4. 異なる立場の人と触れ合う、  
自分の価値観と照らし合わせる
5. **同じ目標**を一緒に作る
6. 小さいことの積み重ねで**信頼**を創る
7. **相互的**な関係

### 課題…

- ・ 正課との兼ね合い
- ・ 正課へ組み込むことで生まれる各人の温度差
- ・ 学内他組織との連携、コーディネーター
- ・ 部屋の中での出会いが限られている→横断的な組織の必要性
- ・ 大学事務局から求められる責任の負い方、手続きがよく分からない
- ・ 環境の不足
- ・ 高校生向けの活動で学生のモチベーションの質が上がるのでは？(ex.グローバルセミナー)
- ・ 減っていく授業、狭まる知識の幅

## 「外大で国際交流しなきゃもったいない！」



### 課題...

1. 会員の納める会費との兼ね合い、人見知りになりがちな日本人、TOFSIA の影響力の限界(受身)
2. ノウハウ不足、他サークルとの関係が希薄、企画統合機関が無い、怪我などの責任が取り切れない
3. 大学によるオーソライズ・バックアップの必要性
4. 現状ではパーティーが主流、散発的、いつも同じメンバー(運営、集客力・コネにも限界)
5. 宣伝力の限界、掲示やメール連絡では効果的でない